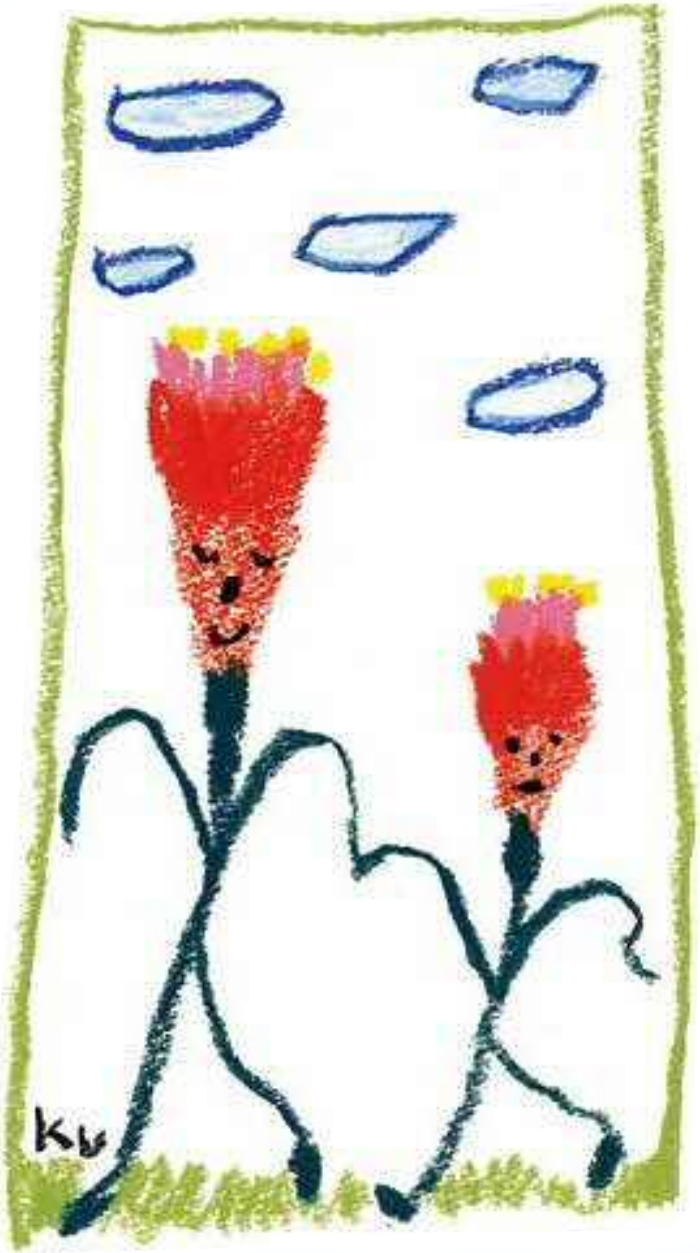
第十回
あなたにあいたくて
生まれてきた詩 コンクール

―ことばはやさしく、こころはふかく―



令和元（二〇一九）年度

作品集

装画　黒田　征太郎

第10回

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール

―ことばはやさしく、こころはふかく―

令和元(2019)年度

作　品　集

宗左近（そうさこん）

（一九一九～二〇〇六年）

北九州市戸畑区生まれ。本名は古賀照一（てるいち）

詩人、評論家、仏文学者、翻訳家。

東京大学哲学科卒業。詩集『炎（も）える母』で歴程賞を受賞。晩年には『響灘』など一行詩の作品を発表。また古今東西を超えた美術評論を行い、著書に『日本の美　その夢と祈り』などがある。また翻訳ではエミール・ゾラ、モーパッサン、ロマン・ロラン、アガサ・クリスティの作品のほか、ロラン・バルト『表徴の帝国』なども手がけた。詩歌文学館賞、チカダ賞、北九州市民文化賞を受賞し、日本現代詩人会から「先達詩人」の顕彰を受けた。

みずかみかずよ

（一九三五～一九八八年）

北九州市八幡東区生まれ。

詩人、児童文学作家。

幼稚園勤務のかたわら、詩や童話を書き始める。その後、児童文学誌「小さい旗」に参加。その作品は、小学校の国語教科書にも採用され、また児童合唱曲にもなった。詩集「いのち」で第五回丸山豊記念現代詩賞を受賞。代表作に「馬でかければ」「きんのストロー」「ごめんねキューピー」など。北九州市民文化賞を受賞。

この詩のコンクールは、北九州の生んだ詩人、宗左近（そうさこん）さんとみずかみかずよさんの業績を記念して行われるものです。

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」は、宗左近さんの編んだ詩集のタイトルから、「ことばはやさしく、こころはふかく」は、みずかみかずよさんのことばからいただきました。

目次

ごあいさつ　1

〈小学生の部〉

自分だけの声　高岩　恭子　2
あたたかい　におい　片岡　莉央奈　3
ぼく、虫だったんですね　中村　紗朱　4
チンパンジー家族　小田　孝太朗　5
おにごっこ　上田　蓮翔　6
きょうりゅうのうた　石田　拓夢　7
青い宝石　岡村　咲那　8
またおじいちゃんにあいたい　宮本　蘭眺　9
きらわないでしぼう　福田　未依　10
お姉ちゃん　新東　茉子　11
コオロギさん　池田　柚　12
あおぞら　大津　櫻子　13
ちきゅう　岡松　雪鶴　14
ぼくは書く　河合　博輝　15
うまれるとき　久保田　雄大　16
いっぱいさわったよ　小山　道琉　17

〈中学生の部〉

こどくは　しあわせ　匿名　18
夏の日　重村　空歩　19
大切な、あなたは　稲田　麻璃　20
過去、今、そして未来　木村　有希　21
僕の祖父母の家　重藤　和人　22
霞　匿名　23
静かな夜　日髙　鉄心　24
ぼくの左手　五郎丸　優樹　25
夕凪　戸島　七海　26
すきま　樋口　かのい　27
日本のカエル　松村　宙留　28
偽りの運命　宮崎　優羽　29
台風が生まれた日　橋本　莉乃　30
さみしさ　川畑　りお　31
「画面の向こう」　河野　鈴　32
線香花火　匿名　33

講評　34
小学生の部　受賞作品　36
最終候補作品　37
中学生の部　受賞作品　38
最終候補作品　39
選考委員　40

ごあいさつ

北九州市長　北橋　健治

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールにおいて各賞を受賞された小学生、中学生の皆さん、そしてご家族の皆様、誠におめでとうございます。

このコンクールは、本市出身の詩人　宗左近先生、みずかみかずよ先生を顕彰するとともに、子どもたちの豊かな想像力や表現力を伸ばし、未来の詩人や作家が誕生することを願って、毎年実施しており、今年で十回目を迎えました。

昨年は、宗左近先生の生誕一〇〇年の節目の年にあたり、このたびはその記念として、「宗左近生誕一〇〇年記念賞」を設けました。

今回は、市内外から一、〇四四作品もの多くの応募があり、そのうち一九二作品は、鹿児島県や愛知県など県外からの応募でした。入賞された作品はもちろん、いずれの作品も素晴らしく、選考委員の皆様も、選考には大変ご苦労されたことと思います。

受賞された皆さんをはじめ、応募された小学生、中学生の皆さんには、国を超えた多様な文化芸術の世界に触れていただき、ぜひ、創作を続けていただきたいと思います。

さて、本市では、日中韓の三カ国で取り組む「東アジア文化都市」を開催いたします。一年間を通して、多彩な文化芸術イベント等を実施しながら、中国・韓国をはじめとする東アジアの国々との交流を図ってまいります。

市民の皆様と一丸となり、「東アジア文化都市二〇二〇北九州」を盛り上げてまいりたいと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、小学生、中学生の皆さんの今後ますますのご活躍をお祈りしますとともに、選考にあたりご尽力賜りました平出先生をはじめ選考委員、関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

最優秀賞　宗左近賞

自分だけの声

鎮西敬愛学園敬愛小学校　三年　高岩　恭子

おなじ三年生の女の子だけど
わたしとクラスの女の子は　声がちがう
お母さんから生まれてきたのに
わたしとお母さんは　声がちがう
世界は広いのに　だれもわたしとおなじ声の
人はいない
なんでみんなちがうんだろう
世界でたったひとつの　わたしだけの声

八年間ずっとおなじわたしだけど
赤ちゃんのわたしと今のわたしは　声がちがう
自分では気がつかないけど
きのうのわたしと今日のわたしは　声がちがうのかな
笑い声　泣き声　おこった声　話し声　さけび声　歌声
声にはいろんなしゅるいがある
だから　まい日声がちがうのかな

だけど　声をつくっているのは　いつだって自分
どんな声を出すのか、えらんでいるのも　いつだって自分

体も心も　そして声もまい日成長している
一日一日　大切にしよう
自分らしい声を見つけていこう
世界でたったひとつの　自分だけの声

最優秀賞　みずかみかずよ賞

あたたかい　におい

北九州市立高見小学校　五年　片岡　莉央奈

今　あたたかいお母さんと　兄妹と
そっと　よりそってねている

ある日起きると　ひとりぼっち
どこに行ったの　さがしたいけど
このかたいものからでられない

やっと　でられた
でも　ここはどこ
くんくん　かいでいると
あたたかいにおい　見つけた
それは　ぼくと同じぐらいの　大きさ
まだ目をつぶっている
その顔を見たしゅんかん　気づいた
ぼくがこの子に　よりそっていくべきと

最初は　ぼくと同じぐらい
一緒に笑ったり　転げ回ったり
毎日が　楽しい
でもあの子は　一日一日と
ぼくをこえていく
時に　大きな輪っかがついた
かたまりに乗って
ぼくを置いてどこかへ行っちゃう
器にのった　おいしいごはんもあるけど
あの子の手から　もらうほうが
千倍おいしいのに

いつかあの子は　かたいものにすわって
かたいものに紙を置き　ぼうでたたいてる
そんなことが楽しいの　ぼくと遊ぼうよ
昔みたいにちょっかいかけても
部屋から連れ出される　だけ

そしてとうとう　その子は大きくなって
家を出て　帰らなくなった
一応　女の人が世話をしてくれたけど
さびしいよ　悲しいよ
その日から　体がきつくなった
お腹がいたくなったり　はきもどしたり
何回か続くと　どこかへ連れ出された
白い建物だ
強くて変なにおい　こわいよう
あの子に　会いたい
そして呼び出され　白いベットにすわった
まわりは　すっごいドタバタしてた
何か始まるんだろうか　ワクワクと不安
その時　またお腹がいたくなった
今までになないたみ　だれか助けて
すると　あの子が走ってきて
ぼくのそばで泣いた
ぼくはお腹がいたかったけど
その子のなみだ　なめてあげた
あたたかいにおい　なつかしいなあ
そしたらその子はやっと　笑ってくれた
ぼくはうれしくて　ほえた
ワンッ

ぼく、虫だったんですね

北九州市立湯川小学校　三年　中村　紗朱

名前はムシムシ。
ムシムシは少しおかしな虫。
ムシムシは自分が虫だと気づいていない。
そして、ムシムシは
れいぎ正しい虫。
自分が虫だと知らないけれど、
れいぎはよくほめられる。
色いろな人にあいさつをして
ほめられることが
ムシムシにとって一番のしあわせ。
ある日ムシムシは
一っぴきの虫と会った。
その虫は空をとんでいた。
ムシムシはこう言った。
「きみ、いいですね。
空を自由にとべて。」
するとその虫は
「きみもとべるじゃないか。
はねがあるんだから。」
と言った。
するとムシムシは
「ぼく虫だったんですね。
人間だと思っていました。」
と、おどろいて言った。
ムシムシは教えてくれた虫に
「ありがとうございます。」
とていねいに言った。
ムシムシは家までとんで帰った。
ムシムシにとってこんなに
しあわせな日ははじめてだった。
よかったねムシムシ。

優秀賞

北九州市長賞

チンパンジー家族

北九州市立足立小学校　四年　小田　孝太朗

夏休み　家族で動物園に行った
とても　ショックなことがあった
チンパンジーのところに着くと
こう書いてあった
『チンパンジーの血えき型はA型とO型
　九わりがA型』
ぼくは　A型だ
となりにいた　お母さんが
わらいながら
「孝太朗は、チンパンジーと同じだね。」
と言った

それから　お母さんは　ぼくが
おっちょこちょいなことをしたり
がつがつ食べていたりすると
「孝太朗は　チンパンジーだもんね。」
と言うようになった
ぼくは　それがすごくいやになった

ある日　お母さんが熱を出した
ぼくは　お母さんの大好物の
たまごやきを　作ってあげた
お母さんの作る　たまごやきのように
ふんわりもしていないし
あまくもないし　少しこげた
おまけに、後かたづけをしていたら
お皿もわった
「ごめんなさい
　ぼくは　チンパンジーだから。」
なみだがポロポロ流れてきた
すると　お母さんが
「わが家は　みんなA型
　チンパンジー家族だよ
　たまごやき　最高においしかったよ。」
と言った
ぼくは　さっきまで　泣いていたのに
うれしくなって　わらってしまった
そして　お母さんと　大わらいした

優秀賞

北九州市教育長賞

おにごっこ

北九州市立三郎丸小学校　一年　上田　蓮翔

10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、0。
みんなをつかまえよう。
はしった。
いっぱいはしった。
はぁ、はぁ。
またはしった。
はぁ、はぁ。
またはしった。
はぁ、はぁ。
またはしった。
いえい。つかまえた。

優秀賞

北九州市立文学館長賞

きょうりゅうのうた

北九州市立西小倉小学校　一年　石田　拓夢

アマルガサウルス　かわいいな
ティラノサウルス　かっこいい
ブラキオサウルス　せがたかい
ヴェロキラプトル　あしがはやい
トリケラトプス　つよそうだ
プテラノドンは　そらをとび
プレシオサウルスは　うみをおよぐ

いま　もし　みんながいたら
すこし　こわいな
だけど　ともだちになって
なかよく　あそびたいな

佳作

青い宝石

明治学園小学校　三年　岡村　咲那

カァカァカァ。
さわがしいなぁ。
何やってんだカラスは。
上で鳴くカラス。
室外きの上にもう一匹。

あれ、
このカラスとべないの。
ケガしたの。
あれ、
小さいような。
子どもかな。
上のカラスは、
がんばれ、がんばれ。
早くとんで、とんでよ。
と言っているのかも。

とぼうとしたけど、とべなかった。
ばこっと落ちて、
はまってる。
ちょっとかわいいな。
青い宝石のような目をしてた。

カラスはとんだ。
と思ったら、
前の木にぶつかって
えだにひっかかった。

がんばってる。
わたしもきっと大人になる。

佳作

またおじいちゃんにあいたい

北九州市立富野小学校　一年　宮本　蘭眺

６さいだったから
ＩＣＵにはいれなかった

まいにちびょういんにいってたのに
はいれなかった
だからさみしかった

おばあちゃんのおへやがひろくみえた
おじいちゃんがいないからひろくみえた

おじいちゃんはどこにいったのかしりたい
てんごくのばしょはどこだかわからない

だけど、おじいちゃんはゆうれいになって
いつもわたしのことをみています

またいっぱいおしゃべりしようね
またいっぱいあそぼうね
おじいちゃんのかおがみたいです
だからてんごくのばしょおしえてほしいです

佳作

きらわないでしぼう

碧南市立西端小学校　五年　福田　未依

重力にさからわない
立ってるとでるけどころがるときえる
さわるとやわらかくて肉まんみたい
肉のジャンバーみたい
みんなはきらうけどあたたかくて役に立つ
横からみると一番出ている
走るとゆれる
おなかをたたくと体が波打つ
いがいにかわいいママのはら

佳作

お姉ちゃん

福岡雙葉小学校　三年　新東　茉子

私のお姉ちゃん　15さい
キラキラの高校生
私8さい小学三年生
お姉ちゃんべん強と部活とお友達と遊ぶのでいつもいそがしそう
にが手な事は早おき
私はよく「朝おこしてね」とたのまれます
たのまれるとなぜかうれしい
お姉ちゃんといっしょに学校も行きたいし遊びにもいきたい
なんならお部屋もいっしょがいい
お姉ちゃんのくつと私のくつをなかよく
ならべてみてもお姉ちゃんのお洋服をこっそり
着てみてもまだまだおいつきそうにない
私がおべん強をいくらがんばっても同じ年にはなれない
お姉ちゃんが妹がほしいって何回もいったから生まれてきたよ
お姉ちゃんは年がはなれてるから
いじわるはしないしかわいがってはくれるけど
私を赤ちゃんあつかいしてだっこしたり
ほっぺとほっぺをスリスリくっつけてきます
うれしいようなはずかしいような
きっと私は自分で思っているより何倍も
お姉ちゃんのことが好きだと思う
お姉ちゃんはそんな気持ちには気づいてない

佳作

コオロギさん

北九州市立三郎丸小学校　四年　池田　柚

ピョン、ピョン、ピョン。
コオロギさんがやって来た。
おいしいにおいにさそわれて。
おばあちゃんに作ってもらったべん当。
私といっしょに食べたいの。

ピョン、ピョン、ピョーン
コオロギさんが、おはしに乗って、私のべん当見ているよ。

コオロギさん、コオロギさん、
私のべん当、あげようか。

佳作

あおぞら

北九州市立三郎丸小学校　二年　大津　櫻子

わたしは、そらを見て
くもがあって、
おもしろいくもがあって
へんなくもがあって
わたあめのくもがあって

おいしそうなくもがあるから、
じっとしている。
下をむいたら、
ありのぎょうれつがありました。

佳作

ちきゅう

北九州市立西小倉小学校　二年　岡松　雪鶴

大きなほしと小さなほし
どっかーん
ぶつかった
まっ赤なよう岩
ぐつぐつぐつ
大きなお山ができました
どっかーん　どっかーん
大きな岩がおちてきて
小さなおいけができました
大きな雨がふってきて
大きなうみのできあがり

ぼくは知っている
ちきゅうは丸くて青いけど
ちきゅうのこころは
ぽかぽかだ

佳作

ぼくは書く

北九州市立西小倉小学校　四年　河合　博輝

カリカリカリ
文字を書く

カリカリカリ
文を書く

カリカリカリ
どうして文字はあるんだろう

もしも文字がなかったら
今ぼくはどうしているだろう

もしも言葉がなかったら
この世界はどうなっているのだろう

カリカリカリ
カリカリカリ

佳作

うまれるとき

杉並区立八成小学校　二年　久保田　雄大

こどもの　せいかつは
いいなと　おもいますが

こどもを　うむのは
たいへんな　ことです

うまれるとき
おかあさんは　とても　いたいです

また　うまれたしゅんかんに
「おぎゃ」と　なかなかったら
こころの　いたみが　おさまりません

おなかの　なかで
なくなっている　ばあいも　あります

こわいです

ぼくも　なかなかったけど
いきかえりました

よかったです

佳作

いっぱいさわったよ

北九州市立三郎丸小学校　二年　小山　道琉

夏休み、ヘビをさわった。プニプニしてた。

イグアナもさわった。やっぱりプニプニしてた。

ウサギもさわった。フサフサしてた。

ハリネズミもさわった。とげをさわった。

あまりいたくなかった。もうちょっといたいと思ったのにびっくりした。

わたしは、ヘビが一番すきだった。

やわらかいし、うごきがスムーズだから。

ヘビが手からおちて、にげていった。

わたしが歩くよりはやかった。

ヘビがこんなにはやくうごくなんてはじめて知った。

最優秀賞

宗左近賞

こどくは　しあわせ

福岡県立北九州視覚特別支援学校　中学部三年　匿名

わたしは　さばくで　うまれたの
なにも　ない　さみしい　さばくで
みずの　ゆたかな　あおい　もりも
しずかに　つもる　まっしろな　ゆきも
わたしは　みたことが　ないの
でも　いいの
だって　わたしは　せかいじゅうの　だれよりも
うつくしい　ちへいせんを　みているのだもの

わたしは　さばくで　うまれたの
なにも　ない　さみしい　さばくで
いきものの　あふれる　あおい　うみも
ひとの　ゆきかう　からふるな　まちも
わたしは　みたことが　ないの
でも　いいの
だって　わたしは　せかいじゅうの　だれよりも
うつくしい　ほしを　みて　いるのだもの
それで　わたしは　しあわせだから

最優秀賞　みずかみかずよ賞

夏の日

指宿市立南指宿中学校　三年　重村　空歩

なにをしているんだろう
子どもたちはあみとかごをもち
木に集まりなにかをまっている

なにをしているんだろう
大きな声を出して楽しそうに走っている
なにもしゃべらず静かに立ち止まっている

なにをしているんだろう
あみをかまえてかごをあけてみんなで
いっせいに走りだした

なにをしているんだろう
子どもたちはあみとかごをもち
木に集まりなにかをまっている

なにをしているんだろう

特別賞　宗 左近生誕一〇〇年記念賞

大切な、あなたは

北九州市立篠崎中学校　三年　稲田　麻璃

話すことはできなかったけど
できることなら
話してみたかった
もっと
あなたのことを知りたかったから

語らずとも教えてくれた
四季の美しさを
その楽しみ方を
人に優しくすることを
家族と友達のありがたさを

知っていたでしょうか
でかけるのが好きでした
帰ったらあなたが出迎えてくれるから
夕方が好きでした
あなたと散歩に行けるから

知っているでしょうか
夏がきらいになりました
あなたがいなくなったから
帰ることがきらいになりました
あなたがいないと一層身にしみるから

私たちと時の流れが違うことを
知っていたけど
解りたくなかった
ずっとそばにいてほしかったから

私の願いが届くなら
どうか見守っていてほしい

あなたは
きっと、天国にいるだろうから

優秀賞

北九州市長賞

過去、今、そして未来

北九州市立則松中学校　一年　木村　有希

今、それはほんの一瞬
過去、それは事実で限りがある
未来、それは予想で無限にある

過去、今、未来
これは一つでも欠けたら成り立たない
過去がなければ今がない
今がなければ過去も未来もない
未来がなければ今がない
こうやって支えあっている

今、この詩を書いている時も
時間はたっている
詩の一行目は過去で
これから書く行は未来になる

過去、今、未来
その上に私は生きている

優秀賞

北九州市教育長賞

僕の祖父母の家

九州国際大学付属中学校　二年　重藤　和人

「カナカナカナー」
山から聞こえて来る蝉の目覚まし
この時を待ちわびていた
蝉の声、木々の葉が風に揺れる音
川がサアサア、ザアザア流れる音
これが僕の祖父母の家だ。

さまざまな木が山を緑に染める
上流の川はとても澄んで美しい
大きな石がゴロゴロ転がっている
これが僕の祖父母の家だ。

薄浅葱色のアオスジアゲハの訪問
黄色と黒色のオニヤンマの見廻り
茶色のミヤマクワガタの迫力
たくさんの虫がいる
これが僕の祖父母の家だ。

自然と
祖父母たちが
僕を楽しませてくれる
これが僕の大好きな祖父母の家だ。

優秀賞

北九州市立文学館長賞

霞

指宿市立南指宿中学校　一年　匿　名

あの日出会ったのは
あのきりがかかった日だったような

あの日気付いたのは
あの空が黒く染まっていたような

あの日見つけたのは
あの虹が七色に輝いていたような

そんな霞がかった日だったような

佳作

静かな夜

北九州市立熊西中学校　一年　日髙　鉄心

夜の静けさはどこからやってくるのだろう
となりで話していた人は
話題がつきて目をつむり
いつしか時計の秒針の音だけが耳に入る
音が消えていくたびに
この静けさが
楽しかった一日を思い出させ
辛かった一日を忘れさせてくれて
僕を明日へ運んでくれる

夜の静けさは
窓のすき間から
時計の秒針から
あらゆる所からやってきて
いつのまにか日本中に夜をつれてくる
朝になればまた消えてしまうけれど
暗くなれば少しずつ静けさはやってくる
声と音にあふれた世界の裏側にある
この静かな時間も僕は好きだ

佳作

ぼくの左手

九州国際大学付属中学校　一年　五郎丸　優樹

ぼくの左手を見てみる。
よくできている。
長さをはかってみよう。
十六センチメートル。
そんなに大きくない。
でも
きき手じゃなくても
色々な所で使う
ぼくの左手。

そんな左手が
一番　活躍する時がある。
それは……
ヴァイオリンを弾く時である。
指を速く動かしたり
ゆっくり動かしたり
ビブラートをかけたり
手をおもいっきりのばして弦を押さえたり。
色々なことをする
ぼくの左手。

おかげで指には
固い「たこ」ができている。

でも、ぼくの八十歳のおじいちゃん先生の
「たこ」は
そんなもんじゃない。
カチコチである。
まるで職人のようだ。

ぼくの左手が
先生くらいになったら
もっときれいなメロディーを
奏でられてるかな？

ガンバレ！
ぼくの左手

佳作

夕凪

北九州市立熊西中学校　三年　戸島　七海

海風が止んで
陸風が吹くまでの
感覚が麻痺した様な瞬間(とき)を
人は夕凪と呼ぶだろう

あの日見た夕日は
金色に光っていた
本当に美しくて
瞳をその色で染めてしまう程に

瞳から金色が
ポトリ　ポトリ　と
静かに零れた
夕闇が
ジワリ　ジワリ　と
広がっていった

今まで見ていたものが
見えなくなって
ちょっと怖くて
不安だけど

明日、日が昇ることを
また照らされることを
ただ信じて
瞳を閉じる

今日を振り返って
明日を信じる
「ほんの」で表す様な瞬間を
私は夕凪と呼ぶだろう

佳作

すきま

九州国際大学付属中学校　二年　樋口　かのい

雲と雲の間に
小さな
すきま
あそこには
なにが
あるんだろう
あたたかい光が
僕らの
街を
優しく
包み込んでくれる

棚と壁の間に
小さな
すきま
ここには
なにが
いるんだろう
きっと
小さな小さな
こびとが
僕らを
見てるんだろうな

僕とあなたの間に
大きな
すきま
そこには
なにが
あるんだろう
こんなにも
近くにいるのに
このすきまは
うめられない
こんなすきまは要らない

ねえ
もっとあなたに
近づいていい？

だって「すきま」って
間があいてて
すっごく寂しくて
さむいから。

佳作

日本のカエル

明治学園中学校　一年　松村　宙留

日本には　四十六種類のカエルが住んでる
カエルはカエルでも　さまざまなカエルがいる
生活している場所が主に
田んぼ　池　川といった水辺であったり
山　森といった山地であったり
カエルはさまざまな環境で生活している

カエルの鳴き声は　面白い
クゥックゥックゥッ・グッグッと不規則に連続して鳴くカエル
グゲゲゲケッグゲゲゲと連続して鳴くカエル
グゥッ・グゥゥッと単発的に鳴くカエル
キリリリッ・キリリリッと少しはっきりと高い声で鳴くカエル
ヴォォォォーヴォォーと低く牛のような声で鳴くカエル
カエルの鳴き声はさまざまで面白い

カエルの顔は　よく似ている
一匹一匹じっくり見ると　みんな違う
ぴょこっと出た目　大きい口
カエルはみんな　よく似ている

カエルの背中は　さまざまだ
一匹一匹よく見ると　みんな違う
背筋を伸ばして　今すぐジャンプしそうなカエル
姿勢を低くして　縮こまっているカエル
ふとっちょに　やせっぽち
後ろ姿は違うけど
やっぱりカエルはみんな　よく似ている

日本には　さまざまな特徴をもったカエルがいる
住んでいる場所
鳴き声
目　鼻　口
後ろ姿
カエル一匹一匹　じっくり見ると
みんな違う
ずら〜り並ぶと　よく分かる

でも
やっぱりカエルは
みんな似ている

佳作

偽りの運命

九州国際大学付属中学校　二年　宮崎　優羽

〝運命〟
それは幸せを連想させる言葉。
でも、
それは誰もが偽りに変えることのできる言葉でもある。
運命の人、運命の出会い、
その言葉に人々はどんどん魅了されていく。
その言葉だけで幸せを感じる人だっている。
でも、
その言葉は偽りに変えることができる。
苦しさ、虚しさのような不幸せなことも生きていく中ではたくさんある。
時にはそれに耐えられなくなることもある。
それで、自ら命に終止符を打つ人もいる。
でも、そんな事までも軽々しく、
「運命だから。」と偽る人がいる。
そんな偽りの運命、
受け入れて良いのだろうか。

佳作

台風が生まれた日

北九州市立門司総合特別支援学校　中学部二年　橋本　莉乃

僕は風
今日
僕は生まれた
熱い熱いお日様の下、温かい海の上
僕は生まれた
キラキラ光る青い水の中で
動いている小さな生き物
少し曇ってみえる空の上で
羽を必死に動かす生き物
僕は初めてみるものに驚いて
やってくる月日の中で僕はいろんなものをみて知った

空から水の玉が降ってくること
空には白いわたが泳いでいること
海にはたくさんの生き物がいること

青く綺麗な海に小さな緑がみえた
僕は初めて海でない場所に立った
そこは初めてのものがいっぱいで
でもそこにいると僕の体はどんどん小さくなった

小さくなって小さくなって
僕は消えてなくなる
短い時の中で僕はいろんなことをみて知った

小さくても綺麗な音を奏でる生き物
大きくて強い生き物
小さな木が大きくなる瞬間

今は雲に隠れてみえないお日様を
きっと知っていてくれるだろう

僕という命が
この世界に生まれてきたということを。

佳作

さみしさ

指宿市立南指宿中学校　三年　川畑　りお

今年は去年と違いました
去年なら
暑い暑いと言いながら
帰路へ着いていました

今年の夏は
冷えた窓から
太陽と海が光る
私の知らない夏でした

佳作

「画面の向こう」

北九州市立黒崎中学校　一年　河野　鈴

悲しいことがあった。
だれかに話したいことがあった。
その時、あなたに会った。
顔も名前も分からない。
でも、あなたは画面の向こうから、やさしい言葉をかけてくれた。

あの日から、あなたと話して、笑って、泣いて。
画面の向こうにいるあなたと話すと、心が軽くなった。

すごく悲しいことがあった。
あなたと話したい。あなたに会いたい。
画面の向こうのあなたに、会うことになった。

すごくうれしかった。
ずっと会いたかったから。
「同い年の女の子」
「やさしくて、可愛くて、一番大切な友達」
そう思って、あなたを待っていた。

トントントン

後ろから、肩をたたかれた。
「あの子だ」そう思って、後ろをふり向いた。

そこにいたのは、知らないおじさん。
「私とずっと歳のはなれた男の人」
「あの子じゃない」「こわい」

私は、走って逃げた。
家にかけこんで鍵を閉めた。

ドンドンドン

おじさんがドアをたたいた。

佳作

線香花火

指宿市立南指宿中学校　三年　匿名

線香花火に火をつけた
小さい小さい球から光の線がはじける
小さな命のパチパチと音をたて
健気にいじらしく輝いていた
消えてほしくなかった
落ちないでほしかった
きれいに光り輝き続けていてほしかった
小さな精一杯の輝きも終わらないでいられるのだと信じていたかった
ぽとりと落ちた赤い小さい命
夏の終わりの夜だった

平出　隆

中学校の部の宗左近賞は、「こどくは　しあわせ」という詩です。もとは点字で書かれたもので、別の人の手で、ひらがなに書き起されたそうです。なんという深いことばでしょう。なんという純粋な声でしょう。決定的なへだてを超えて、この詩は、それを読むだれの胸にもまっすぐに届くでしょう。

みずかみかずよ賞は、重村空歩さんの「夏の日」です。さりげない書きかたですが、とても大胆で繊細な構成です。遠くに、なにをしているのかよく分らない子供たちの集まりが見えます。結局、なにをしているのか分らないまま詩は終ってしまいます。その分らない状態のままで止めて、その状態を見つめつづけたところが、作者の心の柔らかさであり、この詩の、とても得がたい美点なのです。

特別賞の稲田麻璃さん「大切な、あなたは」は、死んでしまった存在に、心の底から語りかけています。それだけで大切な作品ですが、注意して読むと、対象は人間ではなく犬だったのでは、と思われてきます。しかし、「犬」だとはいわず、人間の死に対するのと同じく、敬虔な、礼儀正しい語りかけをしています。感動は、そこからも来るようです。

小学校の部の宗左近賞は、高岩恭子さんの「自分だけの声」です。日ごろ、だれもがあまり意識しないで使っている自分の声に、あらためて耳を澄まし、他の人のそれと「ちがう」、昨日の自分のとも「ちがう」不思議さを味わっています。一番近いところにある不思議に気づかせてくれました。

みずかみかずよ賞は片岡莉央奈さんの「あたたかい　におい」。ずっと読んでいくと素朴な語り手が人間ではなさそうだ、と思われてきて、最後の一

行になって、はっきり「ワンッ」と吠えてくれます。

中村紗朱さん「ぼく、虫だったんですね」は、じつに面白い作品で特別賞です。自分をムシだと思っていなかった、人間だと思っていた「ムシムシ」は、他のムシに「きみ、いいですね。空を自由にとべて」といいますと、「きみもとべるじゃないか。はねがあるんだから」といわれます。

動物や昆虫に語らせることは、童話を読むようで面白いのですが、この作品は、自分は人間だと思っていた虫が、虫だと気づくという逆さまの設定です。これはとてもユニークな想像力ですね。ムシムシが「れいぎ正しい」というところも、面白い、そして意味深い設定です。

今年は、いつもとは一味違う読後感が来ました。普段の目では見過してしまう光景を見つめたり、動物の側に立とうとする工夫に感心したのです。

© Takashi Mochizuki/ ©望月　孝

平出　隆

北九州市門司区生まれ。詩人・作家・多摩美術大学芸術学科教授。装幀家、造本家としても知られる。
一橋大学在学中より詩と詩論を発表しデビュー。1974年に仲間とともに版元・書紀書林を構え、翌年、詩誌「書紀」を発刊。70年代の詩的ラディカリズムの先端を担う活動を展開。詩集『胡桃の戦意のために』で芸術選奨文部大臣新人賞、散文作品集『左手日記例言』で読売文学賞、散文集『ベルリンの瞬間』で紀行文学大賞、評伝『伊良子清白』で芸術選奨文部大臣賞、藤村記念歴程賞など受賞多数。また木山捷平文学賞を受賞した小説『猫の客』が2014年、世界的ベストセラーとなった。

小学生の部

受賞作品

賞	作品	作者	住所	学年
最優秀賞 宗左近賞	自分だけの声	高岩恭子	鎮西敬愛学園 敬愛小学校	三年
最優秀賞 みずかみかずよ賞	あたたかい　におい	片岡莉央奈	高見小学校	五年
特別賞 宗左近生誕100年記念賞	ぼく、虫だったんですね	中村紗朱	湯川小学校	三年
優秀賞 北九州市長賞	チンパンジー家族	小田孝太朗	足立小学校	四年
優秀賞 北九州市教育長賞	おにごっこ	上田蓮翔	三郎丸小学校	一年
優秀賞 北九州市立文学館長賞	きょうりゅうのうた	石田拓夢	西小倉小学校	一年
	青い宝石	岡村咲那	明治学園小学校	三年
	またおじいちゃんにあいたい	宮本蘭眺	富野小学校	一年
	きらわないでしぼう	福田未依	碧南市立 西端小学校	五年
	お姉ちゃん	新東茉子	福岡雙葉小学校	三年
	コオロギさん	池田柚	三郎丸小学校	四年
	あおぞら	大津櫻子	三郎丸小学校	二年
	ちきゅう	岡松雪鶴	西小倉小学校	二年
	ぼくは書く	河合博輝	西小倉小学校	四年
	うまれるとき	久保田雄大	杉並区立 八成小学校	二年
	いっぱいさわったよ	小山道琉	三郎丸小学校	二年

学校団体賞

北九州市立 三郎丸小学校・北九州市立 皿倉小学校

最終候補作品

つたわる　おもい	和田陽愛	福岡雙葉小学校	四年
テイクユアマーク	長野柊也	大里柳小学校	三年
ぼくのおとうと	中藤凌	三郎丸小学校	二年
俺の兄ちゃん	野々山嵩琉	碧南市立西端小学校	五年
妹が生まれて	匿名	中井小学校	四年
いっぱいとんでるんですけど	鴨田玲音	三郎丸小学校	一年
けんか	吉村風優	三郎丸小学校	二年
ラグビー	椎田泰局	三郎丸小学校	五年
なつがきた	山澤愛弓	中井小学校	四年
さくら	土江悠生	大里柳小学校	二年
せみ	吉岡樹希	皿倉小学校	五年
おかえり	越智陽也	皿倉小学校	五年
スイミングやめたいなぁ。	白石小春	戸畑中央小学校	三年
お父さんとキャッチボール	永水快醒	戸畑中央小学校	三年

小学生の部　応募総数261点

中学生の部

受賞作品

	作品	住所	氏名
最優秀賞 宗左近賞	こどくは しあわせ	北九州視覚特別支援学校 中学部 三年	匿名
最優秀賞 みずかみかずよ賞	夏の日	指宿市立 南指宿中学校 三年	重村空歩
特別賞 宗左近生誕100年記念賞	大切な、あなたは	篠崎中学校 三年	稲田麻璃
優秀賞 北九州市長賞	過去、今、そして未来	則松中学校 一年	木村有希
優秀賞 北九州市教育長賞	僕の祖父母の家	九州国際大学付属 中学校 二年	重藤和人
優秀賞 北九州市立文学館長賞	霞	指宿市立 南指宿中学校 一年	匿名
	静かな夜	熊西中学校 一年	日髙鉄心
	ぼくの左手	九州国際大学付属 中学校 一年	五郎丸優樹
	夕凪	熊西中学校 三年	戸島七海
	すきま	九州国際大学付属 中学校 二年	樋口かのい
	日本のカエル	明治学園中学校 一年	松村宙留
	偽りの運命	九州国際大学付属 中学校 二年	宮崎優羽
	台風が生まれた日	門司総合特別支援学校 中学部 二年	橋本莉乃
	さみしさ	指宿市立 南指宿中学校 三年	川畑りお
	「画面の向こう」	黒崎中学校 一年	河野鈴
	線香花火	指宿市立 南指宿中学校 三年	匿名

学校団体賞

北九州市立 黒崎中学校・九州国際大学付属中学校

最終候補作品

ほおずきタワー	原 丈太朗	明治学園中学校	一年
日田彦山線	彌永 凌大	明治学園中学校	一年
A slope with hope	田﨑 百夏	九州国際大学付属中学校	三年
鳥	李 子沐	明治学園中学校	一年
僕とねこ	中島 太一	九州国際大学付属中学校	一年
待つ時間	鈴木 優奈	九州国際大学付属中学校	二年
声	瀬尾 愛子	明治学園中学校	一年
危険な海	藤本 友里愛	熊西中学校	一年
ハンドボール	武藤 あゆ美	明治学園中学校	一年
宝物	小野 菜々美	九州国際大学付属中学校	二年
登校	鶴田 翔希	白銀中学校	一年
忘れ物	野田 陽菜	白銀中学校	一年
人はみんな	林 さや香	九州国際大学付属中学校	一年
夜空	荒瀬 凌珂	九州国際大学付属中学校	一年
生と死	川波 愛莉	熊西中学校	一年
手	匿名	九州国際大学付属中学校	二年
目	角田 悠貴	九州国際大学付属中学校	二年

中学生の部　応募総数783点

選考委員

最終選考委員

平出　隆

二次選考委員

鷹取美保子
大川内夏樹
岩下　祥子
北谷　真司
城戸　祥次

一次選考委員

鷹取美保子
大川内夏樹
岩下　祥子

第十回
「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール

―ことばはやさしく、こころはふかく―

令和元年度

作品集

二〇二〇年二月二十九日発行

編集・発行

北九州市立文学館

〒八〇三―〇八一三

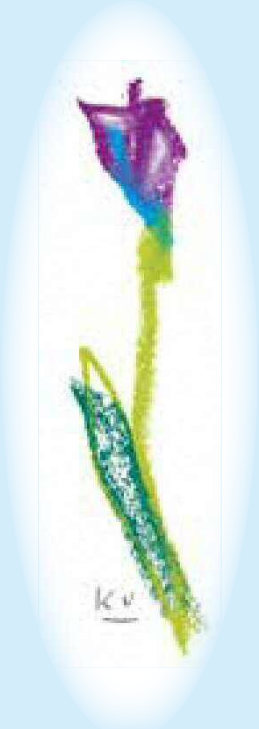
北九州市小倉北区城内四番一号

ＴＥＬ　〇九三―五七一―一五〇五

ＦＡＸ　〇九三―五七一―一五二五

印刷・製本　（有）青雲印刷

※本書掲載の記事及び写真の無断転載・複製を禁じます。



北九州市立
文学館
Kitakyushu
Literature Museum

1909116A